

『思いやりの心もち、行動できる生徒を育てる
ピア・サポート活動』 藤枝市立藤枝中学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	学級開き 新入生歓迎会 新入生への校歌手話指導		【年度初め職員 会議】
5月	学びアシストタイム（3→1年） 修学旅 行 学年行事（キャリアインタビュー、地 域探訪）		・本校におけるピ ア・サポートの考 え方を全職員で 共通理解
6月	色決め&結団式 歌おう集会	①学級のピア・サポート 学級活動や総合的な学習、「話 し合い活動」の時間を活用し、 ピア・サポートのスキルアップ トレーニングを行う。	・スキルアップト レーニングの進 め方を確認
7月	団別活動（ソーラン節練習） 体育祭種目 説明		
8月		②学年のピア・サポート 学年行事を成功させようとい う意識の元、学年一体となり、 協力し合いながら活動する。 道徳、体育祭、合唱発表会の 振り返り用紙に友達の良かった ところを記入する。	【活動の成果を 確認】
9月	交歓合唱 合唱中間発表会 合唱発表会 団別活動(体育祭練習)		・学校、学年、学 級のそれぞれで ピア・サポート活 動に関する掲示 物を作成し、生徒 の目につく場に 掲示する。
10月	団別活動 体育祭		
11月	生徒総会 小学校への読み聞かせ	③学校のピア・サポート 団別活動での交流を通じて、 異年齢集団と関わりを持つ。 学校で見られたピア・サポー ト活動を生徒会の放送で紹介す る。 各専門委員会の活動にピア・ サポートの内容を取り入れる。	
12月			
1月	小学校へのあいさつ運動 学びアシストタ イム（2→1年） 団別歌おう活動		
2月	受験応援メッセージ ありがとうを伝えよう		
3月	3年生を送る会 卒業式		

1 本校のピア・サポート

本校では、学校教育目標「自律・探究・協調」を掲げており、「安心・安全な学校づくり」を実現に向けた重点の一つとしてきた。ピア・サポート活動は、ここに位置づけられ、教員も4月から共通理解し、一枚岩となって取り組んでいる。また行事や生徒会活動では、すべての基盤にピア・サポートの精神があり、活性化や諸問題の解決につながっている。昨年度の課題として、コロナ禍での生活が続く中で、対面での活動場面をいかに確保するか、また集団や地域に貢献した活動の実施があげられた。さらに本校のピア・サポートが醸成されていくよう努めた。

2 特徴的な活動

(1) 学び「アシスト」タイム<提言6>

この活動は、1年生が最初の定期テストを受ける前に、3年生から勉強の方法や計画について助言するというものである。3年生は家庭学習の取り組みをふり返ったり、効果的な方法を模索したりと、意識・取り組みの基礎を固めた。また1年生のために、話の順番を工夫したり、紙やタブレットでの提示を行ったりした。成果物を見せる班もあり、イメージがわきやすい内容となった。この時間を通して、1年生は不安の解消と意欲の向上ができた。さらに1・3年生が互いを尊重し合った温かな交流が生まれた。



(2) 生徒会活動<提言6>

11月には2年生へと生徒会活動の中心が受け継がれ、スローガンを「明兆」とした。これは1年間がすべての生徒会員にとって明るく充実したものになりたいという思いが込められている。ピア・サポートの精神を大切にし、本部役員の中では行事に多くの人に関わりつくりあげること、楽しめることを考慮した議論が増えてきた。特別活動では、福祉委員会が募金活動を実施した。趣旨や有用性を放送や紙面で訴え、学校と社会がつながる機会を生徒主体で設けることができた。保健委員会では、学校保健委員会の「電子メディアと健康」に続いて、朝の会にストレッチを取り入れた。タブレット使用による体の不調を予防・改善することを目的とし、生徒の実態に即した企画となり、心身の健康に結びついている。各委員会で打ち出す活動は、今の藤中生の生活をよくとらえており、互いに支え合い、思いやり溢れる行動となっている。

(3) 小学校との交流イベント<提言8>

2年生が小学生に読み聞かせとレクリエーションを行った。発達段階に応じて、本選び、ジャンルの偏り、読む順番などを試行錯誤した。初めての読み聞かせだったため反復練習し、級友とアドバイスし合いながら体得した。進行を考える際にも、「あだ名で呼んでもらおう」や「名札はひらがなで書こう」など相手の目線に立った言動が自然と増えた。活動後の感想では集団に貢献できたことにやりがいを感じた内容が多く、中学校区のピア・サポートの伝統が受け継がれていることを示していた。



3 本年度の成果と来年度に向けて

生徒アンケートでは、肯定的な意見が「仲間との関わりを大切にしている」95%、「ピア・サポートを感じたり、意識して行動したりしている」90%と高かった。さまざまな実践を通して、他者を思いやる行動ができており、生活にピア・サポートの精神が根ざしてことがわかる結果となった。活動の提案こそ教員主導だったが、質を向上させたのは生徒が豊かな人間性をもっているからである。今後も生徒会活動を中心に、現状から立案し成果が出るまでの工程を生徒自身に楽しんでもらいたい。また教員と生徒の共通認識が薄れないよう、どの場面にもピア・サポートの精神があるよう投げかけなくてはならない。その都度、実態に応じて「ピア・サポートだからやる」のではなく、ピア・サポートの視点で成長を促す指導を継続していきたい。